

学園便り

遊楽部学園
自治会

私の初夢

山田輝雄

昨年の漢字は絆です、人間は生まれた時点で絆で結ばれます。親子、兄弟、家庭、地域、社会と大きなつながりがあります。その絆が無残にも引き裂かれたのが東日本大震災と福島原発事故でしょう。人間は自然をコピーツール出来ません。生き残った者同志がまた絆を深めて地域社会を再生する能力を人間は持つています。思い起こしますと三十周年の記念誌のタイトルも絆でした。

町内にも絆という介護施設があり、絆は巷にありふれています。この遊楽部学園も四十年もの長い間継続されてきたのも会員同士の深い絆に他なりません。一人で悩んでいけるより友達と話すことに依って苦労は半減されます。一人の喜びが仲間が増えることに依って倍増、五十倍にもなります。一年の計は元日にあり、我々の夢、希望はそんな大躍進した物ではありません。今ある健康や生活が維持出来るればというささやかな物なのです。

しかし、人類史上初めて超高齢社会に突入、現在は四人に一人、三十三年後には半数が高齢者になると予想されます。引退して余生を送るとか社会に甘える事が出来なくなり、また社会的弱者と云われないよう、持てる能力を十二分に発揮して、弱いつつ同志が肩を寄せ合い助け合つてこそ遊楽部学園の本領発揮と云うべ



きでしよう。不老長寿、物資豊富が人類の夢でした。この人生観が見直される時期にきました。JDP国内総生産が世界第二位、平均寿命が世界一位、これで日本は一番幸せだと思っていました。

昨年の東日本大震災、原発事故の現状を見て、更にブーランのワンチク国王の来日で価値観が大きく変わりました。ワンチク国王が提唱する国民総生産に変わって、国民総幸福量、所謂、金銭的、物質的豊かさ、を求めたのでは無く、生活環境、伝統文化、自給自足の原則、地産地消、精神的豊かさの追求です。因みにブーランには鬱病という病気は無いそうです。自殺者もありません。

原発は日本産業の発展のシンボルでしたが、こうも簡単に安全神話が崩れ去り今まで原発を推進してきた御用学者は誰も責任を取りません。

原発マネーに汚染された科学者は想定外だと云って職務を放棄しています。そして悪いのは風評被害だといふ他人のせいにしています。かつてチャップリンは一人殺せば犯罪者になるが百万人殺せば英雄になると云いました。現在の日本では円高で苦しんでいるかも知れません。益々格差が拡大です。九百兆円もの借金があるのに何故でしょう、日本より借金が少ないギリシャやイタリアは財政が破綻してしまいました。

借金の中身が違ふからです、ギリシャやイタリアは外国からの借金です。日本は国債、所謂銀行からの借金です。我々が戦後汗水垂らして働いて貯めた貯金が運用されていくす。子孫へ財産を残すのを止めて金を使い切る。個人消費が伸びないと景気が良くなりません。折角長生きしたのにそれが徒になつてはたまりません。

人類が初めて百年を生きる世代になりました。人生を大いに楽しむと言う発想の転換をしましょう。悠久に時代が流れる中で百年は一瞬の瞬きに過ぎません。個人消費が増えれば景気が良くなります。但し消費税を上げれば景気が停滞します。景気が良くなり、皆さんと絆を深めて遊楽部学園が楽しく充実していくのが私の初夢でした。

新年交流会

一月十三日

遊楽亭

バスで遊楽亭に到着後、過去に新年会では集合写真を撮った事が無かつたので早速撮影、普段は2、3回シャッターを押すが今日は一回でOK、これがまた素晴らしい出来映えです。これも会員皆さんの意気軒昂の表れでしょうか。



大寒波にも拘わらず45名の出席、正装で身を包み今年も身体に気をつけて頑張りましょうとあちこちで新年の挨拶、仲間と

一所に活動出来る事が最高の幸せです、会員の平均年齢は八十歳近い、更にパワーアップです。

舞踊、ダンス、カラオケ、パークゴルフのサークルがあります、新年会はその発表会でもあります。笹田浩道議からは元氣な高齢者、活躍する高齢者、若者の見本となつて下さいと激励を受けました。余興の前に荒田副会長の指導で身体をほぐすストレッチ体操から始まり、飲んで、歌って、踊って、大いに盛り上がりしました。



ストレッチ体操

学園と学習塾との

交流会に思う

熊石生きがい学習塾

手塚利昭

十二月九日の標記の交流会に参加し、「楽しく学ぶことが生きがいにつながる」という事を感じました。「八雲町遊楽部学園」も「熊石生きがい学習塾」も共に高齢者に相応しいプログラムを通して、学習している様子が分かりました。

特に「学園」では学園自治会を設けて、「学園」と共に活動しているお話を聞いてすばらしい事だと参考になりました。又、自主的なサークル活動も行なわれていて、事業の充実さが感じ



られました。

「学習塾」では、活動期間や事業数は少ないけれども、各地区での老人クラブやレディスネットワークの活動、カラオケ愛好会・囲碁会・俳句会などの趣味の会等に所属している塾生も多く、人によってはかなりの学習・交流の場を持って居ります。今回の交流会の中で、無理の無い学習や事業での交流によって、互いの絆を強め合いたいとの話しが為されました。

とにかく楽しく学ぶ事の出来る、仲間作りの場を広げる為にも交流は大切な事だと思いました。今後共、手を携えて「高齢化社会」の中で、明るく楽しく過ごして行くことではありませんか。

映画鑑賞

一月二十日

玉音放送

高見貞子

日本で一番長い日、玉音放送の真実を知りあの敗戦の録音が関係者の中で何日も時間をかけて原稿を推敲し、放送が実現されて、日本人は敗戦というレッテルを負わされたが、あの時戦争を中止しなかったら日本の国は滅亡に至ったと思う。当時私も八雲鉦山小学校生で二十年八月十五日日本晴れの天気でした。校長先生に今日は大事なラジオ放送があるので集合して聴くようにとラジオの前に座る。

やがて天皇の低い声で耐えがたきを耐えてと後は何を放送しているのか難しい言葉で理解出来ませんでした。放送が終わってから校長先生が日本の



玉音盤

国はアメリカと戦って負け、これからの私たちはどのような暮らしになるのか、女生徒十八人集まったことを思い出します。

今日集まった皆さんはこの玉音放送を日本のどこかで聞いたと思います。六十六年前のあの日真実を知り、感動しました。平和の日本の繁栄を祈り私の感想を記しました。

終戦記念日に思う(その一)

河原忠義

今から六十六年前の今日、それは一九四五(昭和二十年)八月十五日を中国の中部、湖南省長沙市で私が従軍中に迎えた、我が人生の一大記念日です。

平成十九年八月に発行の自分史「続・晩鐘」に記した私の戦争回想録を紐解きながら、平和への突破口でもある十五年に亘る長かった対外戦争への停戦詔書がラジオを通して全国民に、天皇陛下自ら放送された記念日であることを想起することに

します。昭和六年九月十八日に日本が日露戦争の勝利で獲得した、長春―旅順―大連に及ぶ延長千kmの、南満州鉄道とそれに付帯する経済権益を堅持中に、奉天・柳条溝で爆破事件の後暫くして、十二年七月七日に北京・盧溝橋での夜間の発砲事件を糸口に、日本軍はこの年の十二月十三日に南京を陥落、翌十三年十月十七日に共に中国の首都であった武漢三鎮も占領しましたが、蒋介石総統は米英の積極的な援助で、重慶に遷都してまで徹底抗戦して、日本の戦力の消耗を計ったのでした。

何処の国でも首都が陥落すれば国旗を掲げるのが常識なのが、中国は簡単ではなかった。短期決戦が意の如くならず、十六年十二月八日遂に世界の列強を相手に大東亜戦争に突入したのです。中国へは侵略戦争であり、強大国米国へは無謀な挑発的戦争でしたので、残念ながら世界が日本に味方してくれる何物も無かった事でした。

そんな中で私は昭和十五年十二月から二十一年七月まで、約六ヶ年間に中国大陸での従軍でした。二十才から二十六才迄で私には青春なしです。ここで日本軍の中国での占領地は、広大な大陸だけに点と線に止まっており、私共は絶えず身を賭して行動して居りました。

私共に課せられた仏領印度支那からの日本への物資の輸送を、中国大陸を経由して陸上輸送の計画も、遂に実現不能で終戦になったのです。

続く